



Why
don't you  try?

青少年赤十字国際交流ガイドブック

*International Exchange Guidebook for
Junior Red Cross Members*

Why
don't you  try?

 **日本赤十字社**
JAPANESE RED CROSS SOCIETY



ちかい
わたくしは
青少年赤十字の員として
心身を強健にし
人のためと郷土社会のため
国家と世界のために
つくすこととちかいます

青少年赤十字実践目標

生命と健康を大切にする。

健康・安全

人間として社会のため、人のために
つくす責任を自覚し、実行する。

奉仕

広く世界の青少年を知り、なかよく
助け合う精神を養う。

国際理解・親善

平成20年2月 発行

編集・発行／日本赤十字社 総務局組織推進部青少年・ボランティア課

〒105-8521 東京都港区芝大門1丁目1番3号

電話 03-3437-7082 FAX 03-3432-5507

HP <http://www.jrc.or.jp/>

はじめに

海外編

1

このガイドブックは…
国際交流の3つの柱
国際交流を始める前に

5

青少年赤十字の代表として海外に派遣される

1. 有意義な交流のために

海外派遣プログラムの特色
訪問国でのプログラムは…
代表としてのあなたの役割
あなたの参加が決まったら
問題意識を持つ

10

2. 事前学習・準備の進め方

訪問国のことを学ぶ
日本について認識を深める
日本の赤十字や青少年赤十字について知る
発表（PRESENTATION）の準備
意見交換会・討論会のために
交歓会などで披露する企画の準備
自己紹介
スピーチ

19

3. 旅行の準備

服装と履き物
持ち物

国内編

24

荷作りと携帯荷物
海外旅行の基礎知識
訪問国へのおみやげ（プレゼント）

4.

海外での行動

訪問先での生活は…
代表としての心がけ
行動の約束
安全な旅行のために
案内されて～表敬訪問・施設見学の心得～
みんなが参加して～交歓会・キャンプなど～
ホームステイでお世話になる
健康管理

32

5.

帰国したら

帰国してすぐのこと
今後の取り組み
報告書をまとめる

35

海外から青少年赤十字の代表を迎える

1.

有意義な交流のために

受け入れプログラムの意味
迎える側の心がまえ
知っておきたいこと
プログラムを計画する前に

38

2.

プログラム作り・参加の仕方

学校に迎える

トレーニング・センターに迎える
日常活動に迎える～活動交流～
討論会・交歓会
案内・見学
プログラムに参加する人は…
記録をとる

45

3. わが家に迎える～ホームステイ～

ホームステイのねらい
ホストファミリーの心得
出迎えからお別れまで
健康・安全
案内・観光
生活習慣の違い
経費の負担区分

53

4. 終了したら

外国語によるコミュニケーション

55

語学力を心配する前に
充実したコミュニケーションをめざして
話せる英会話のためのヒント
親善品の交換をしてみよう
メールや手紙の交換をしてみよう
和英用語集
スピーチ例文



このガイドブックは
青少年赤十字の国際交流に実際に参加する人の身になって
具体的なアドバイスを提供するために作られています。
「実際に参加する人」とは、
青少年赤十字代表団の一員に選ばれ外国を訪問することになった人や、
海外からメンバーを受け入れるための
プログラムを企画したり、それに参加する人のことです。
興味のあるページからどんどん拾い読みをして、
大いに活用してください。



●国際交流の3つの柱

青少年赤十字の国際交流は、方法の違いから3つの分野に分かれるものと考えられます。

海外派遣プログラム

数名の青少年赤十字メンバーや指導者によって代表団を編成し、海外に派遣して交流を図る。その成果を帰国後、発表を通して他の青少年赤十字メンバーに伝える。

受け入れプログラム

海外から青少年赤十字メンバーや指導者あるいはボランティアを招いて、日本各地で交流を行い、地元成果を広める。

親善品・メール等交換プログラム

直接、人との交流はできなくても、親善品の交換を通じてお互いの文化や活動等を知り合う。

★いずれも赤十字のルートで交流を進めます。方法は違ってもねらいは同じです。



●国際交流を始める前に

国際交流のねらいとは何か、次のことをヒントにちょっと考えてみましょう。

広く世界の青少年を知る

理解とはお互いの違いを知ること

国・言葉・生活・文化の違う人どうしが100パーセント理解し合うなど不可能なことです。お互いの距離を埋めるのではなく、どれだけ離れているかを測ることが理解や親善への道です。

自分の持っている座標軸を知らせ合う

各自の持っている物の見方・考え方・感じ方・生活の仕方などその人の身に備わった行動の基準（生活文化）は、数学の座標軸のようなもの。お互いが自分の座標軸を見せれば少しは相手が見えてきます。

仲良く助け合う精神を養う

しっかりした考え方を持つ

自分とは異質なものをそのまま受けとめ、世界中の人々と“共に生きる”という発想をします。

奉仕から生まれる親善こそ…

本当の親善はお互いの真剣な働きかけを通じて得られるものです。親善を生むほどのダイナミックな出会いや奉仕活動こそが国際交流の求められる姿でしょう。

赤十字の旗の下に

青少年が赤十字の旗の下に集い、“人道”の実践を約束し合う機会として生かすことが国際交流を意味あるものにしてくれます。

海外編

KAIGAIHEN

青少年赤十字の代表として 海外に派遣される

国際交流は、お互いに力を合わせて
何かに取り組み、それを成し遂げる中で
大きな成果が生まれてきます。
今あなたはそのスタートラインにいるのです。

1.

有意義な交流のために

●海外派遣プログラムの特色

観光を中心にした個人の海外旅行とはまったく違う特色がいくつか挙げられます。

1. 訪問国の赤十字社がプログラムを組んで受け入れてくれる
2. その国の人々と深い交流ができる
3. 赤十字を共通の土俵として交流が行われる
4. 明確な目的がある
5. 参加者は仲間たちに体験をフィードバックする任務を負う
6. 自分を大きく成長させる機会になる



●訪問国でのプログラムは…

プログラムには、次のようなものが盛り込まれます。

表敬訪問

敬意を表するために赤十字の本社や支部、関係機関を訪れ、責任ある立場の人に面会する。

活動紹介

お互いの青少年赤十字活動や赤十字社の活動を紹介し、理解する。

意見交換会・討論会

決められたテーマにもとづいてお互いの意見を交換したり、討論の結果、共同で何かを作り出すこともある。

文化交流会・交歓会

伝統芸能を披露したり、国の紹介をする。また、ゲームをしたり、歌を歌って楽しい一時を過ごす。

ワークキャンプ

キャンプ場などで共同生活をしながら、ボランティア活動や交流を行う。

活動参加

訪問国のメンバーが実際に行っている青少年赤十字活動を見学したり、いっしょに参加・体験する。

レセプション・フェアウェルパーティー

歓迎や歡送（お別れ）のセレモニーや食事をしながら交歓する。

ホームステイ

その国の家庭に招かれ、1～2泊を共に生活して交流する。

★他にも様々な予測できないプログラムがあるかもしれません。準備ができるものとその場で対応しなければならないものが出てくるでしょう。

●代表としてのあなたの役割

漫然と旅行をしてくるのでは困ります。青少年赤十字の代表として、次の5つの役割が期待されます。

1. 伝える

日本のことや日本の赤十字や青少年赤十字のことを相手に伝え日本を理解してもらう役割

2. 得る

訪問国で何かをつかんで(学んで)くる役割

3. 還元する

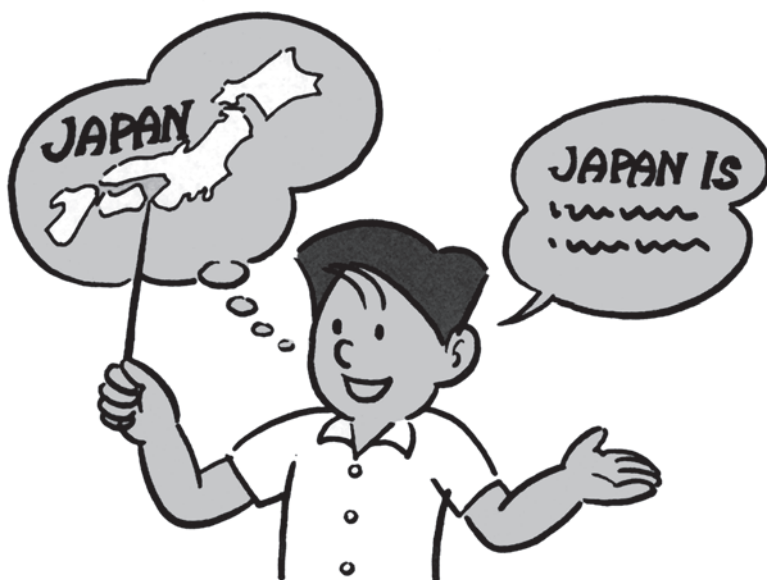
得たこと・体験したことを日本の仲間へ伝え広める役割

4. つなぐ

両国の青少年赤十字の友情をつなぐ役割

5. 進歩する

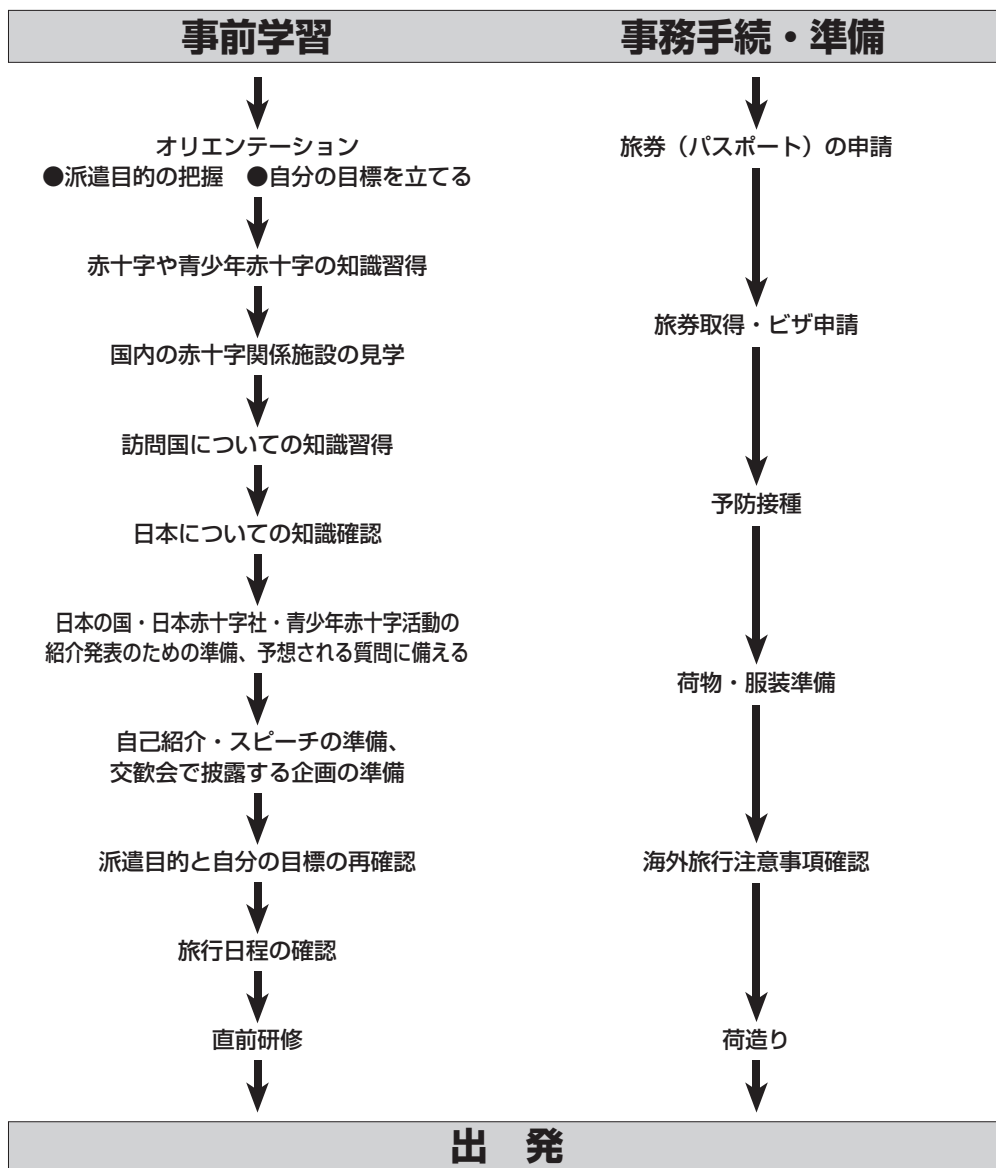
体験を活動に生かし青少年赤十字の新しい展望を導き出す役割
自分自身を進歩(自己成長)させる役割



●あなたの参加が決まったら

出発までの間にあなたがしなければならないことをフローチャートにまとめました。
限られた時間の中で計画的に確実にこなしていく必要があります。

参加決定



●問題意識を持つ

参加者としての役割を果たす上で、また事前の準備や学習を進める上で、常に問題意識を持って取り組む必要があります。では問題意識を持つにはどうしたら良いでしょう。

1. 事業目的を良く理解する

予定されるプログラム内容を調べ、どんな事が行われるかを知る。

2. 自分自身の参加目標を持つ

この体験を通じてどんなことを得たいと思うか、自分にどんな課題を課すか、自分にとってどんな意味を持たせるかなど、具体的な目標を設定する。

3. 目的・目標にしたがって自分の興味関心を膨らませる

資料にあたって学習したり、情報を集めたり、新聞・テレビ・映画などいろいろな媒体を積極的に利用して刺激をうける。



2. 事前学習・準備の進め方

●訪問国のことを学ぶ

訪問国の地理や歴史、産業、政治、文化、教育、人々の暮らし、などについて学習することは外国へ出かけるための第一歩であり、訪問国へのエチケットとしても大切です。さらに日本との歴史的な関わりや今日の関係などについて学習を広げる必要があります。

1. 百科事典や地誌などで訪問国の概要を知る。
2. 新聞、インターネットや雑誌から訪問国に関する記事を集める。
過去のは図書館にある縮刷版やバックナンバーも利用する。
3. 自分の興味のある分野で訪問国について書かれた本を読む。
4. 訪問国が英語圏以外の国ならばその国の言語を学ぶ。
あいさつやごく日常的な言い回し、よく使いそうな単語などを知っておくとよい。
あとは少しでも多くの言葉を現地で習得するようにしたい。
5. 訪問国の赤十字社について可能であれば事前に調べておくとうい。
6. 常に訪問国のことを気にかけておき情報を得るようにする。
7. 国際キャンプなどで日本以外に多くの国から参加者がある場合は、それらの国々についてもある程度のことは調べておくとうい。
8. その国に行ったことのある人や同じようなプログラムに参加したことのある人がいれば、その人たちに話を聞く。

●日本について認識を深める

自分の国については意外に知らないことが多いものです。また、日本のことを学ぶうちに外国を見る目や興味の幅も広がるでしょう。

1. 日本を伝えるために

訪問国の人々にとっては、あなたとの出会いが日本を知る唯一の手がかりであり、あなたへの印象がそのまま日本への印象として受け止められることになるので、正しく伝えるためにも正しい知識を確認しておく。

2. 自分の力で説明する

資料の丸写しや借りものでなく、自分の国を自分の力で誇りをもって説明できるようにする。生まれ育った郷土のことを中心にすれば、より自信が持てる。英語で日本を紹介した本が出ているので言い回しなど参考にするとよい。

3. 紹介に役立つ材料を集める

道具、衣装、写真、スライド、ビデオなど持って行けそうなものがあれば、実際に見せながら紹介できるので、理解の助けになる。

ビデオは日本と外国とでは信号方式が違う場合があるので事前に確認しておく必要がある。



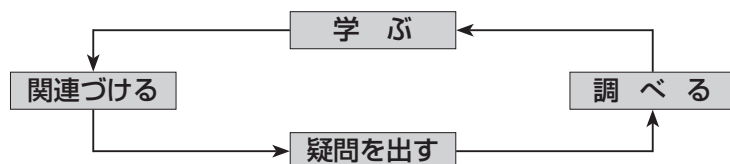
興味・関心を広げるには

1. いつでも「なぜ」「どうして」と考えながら学ぶ。

単に知識を詰め込む試験勉強のような学習ではなく、学んだことや調べたことから常に疑問点を見つけるようにする。

2. 知識を関連づけてとらえる。

学んだことや得た知識をバラバラにしておかないで相互に結び付けて考えてみる。



●日本の赤十字や青少年赤十字について知る

赤十字や青少年赤十字のことは訪問国での中心テーマになりますから、具体例と共に説明できるように知識を得ておきたいものです。

1. 日本赤十字社を知る

歴史、組織、事業について資料を調べる。他の赤十字社と異なる特色などをおさえておく。

2. 青少年赤十字について知識を整理する

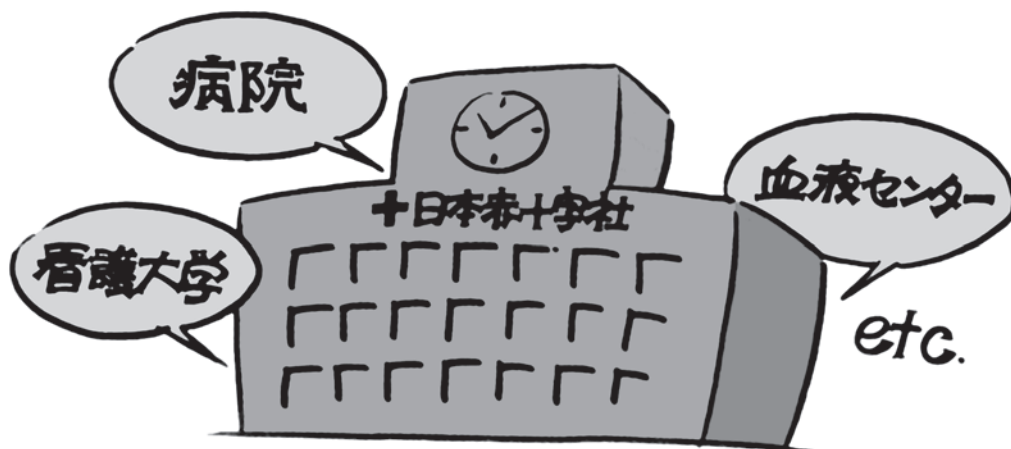
歴史、現在の規模(学校数やメンバー数)、組織形態、学校における位置づけ、小中高別の活動内容、当面する課題など全体像を把握する。赤十字や青少年赤十字について学校内でアンケートをとり、その結果を紹介してみるのもよい。

3. 自分にとっての青少年赤十字

自分にとって青少年赤十字に参加する意義は何か、いま自分が抱えている課題は何かなどについて考えをまとめておく。また、このことについて周囲の仲間やできればいっしょに行く人たちと意見を交換し、研究しておくといよい。

4. 赤十字関係施設の見学

訪問国でも病院や血液センター、乳児院などその国の赤十字関係施設を見学する機会が設けられることがあるので、比較の尺度を持つためにも、日本赤十字社の施設を事前に見学しておくようにする。



●発表（PRESENTATION）と準備

プレゼンテーションとは、あらかじめ準備した内容について大勢の参加者の前で発表することです。意見交換会や交流会などで、特に時間を設けて相互に発表することが多いようです。

発表内容は、自国のことや赤十字・青少年赤十字の紹介が中心になります。“伝える役割”を果たすためにもしっかりした準備が必要になります。

1. テーマを決める

学習してきたことをもとに発表テーマを決め、内容の骨子を考える。あまり網羅的な膨大なものにしようと思わないで、ポイントを絞り、興味を引くような具体例やトピックで説明できるようにする。限られた発表ですべてを伝えることには無理がある。話のきっかけ、話題の提供くらいに考えるほうが準備しやすい。

2. 英語で準備

発表したい内容を日本語で組み立て、内容が固まったら英語に直していく。このとき逐一完全な英作文をしようと考えないで、伝えたいことを自分が言える範囲の英語に置き換える（意識する）ようにする。無理に難しい単語や言い回しを使ったり機械的な翻訳をすると、本番で自分がまごつく原因ともなる。

3. 発表時間は1人5分～10分

場面によって違うので、与えられた時間に応じて自在に伸縮できるように準備しておきたい。

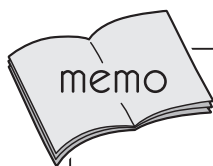


4. 形式の工夫

発表を視覚的に補うために、内容に沿った発表用資料を用意する。大きな紙に図表や絵、イラストを使って表現し、発表後はその場に掲示しておいてもある程度わかるように骨子を記入しておくとい。歌を織り込んだり、紙芝居にするのもおもしろい。準備はすべて一人でやろうとしないでクラブの仲間に協力してもらうようにする。

5. あとは練習あるのみ

自分の発表はメモを見なくても説明できるようにしたい。一生懸命練習しよう。



発表は

1. 堂々と自信を持って
2. 大きな声で顔を上げて
3. 聴衆の目を見て
4. 笑顔で
5. 緊張しないで、ふだんの自分で

※自己紹介やスピーチもこの要領で

●意見交換会・討論会のために

あるテーマにもとづいてお互いの考えを交換したり討論する機会は必ず持たれることとなります。

一般的で受け売りの知識はあまり役に立ちません。自分が体験し考えたことや自分の意見が求められます。

1. 日頃から

日頃から赤十字活動やボランティア、社会の動き、国際問題などに関心を持って、それらに対する自分の考えを持つようにしよう。

2. 青少年赤十字活動の目的

自分にとって青少年赤十字活動に参加する意味、活動の体験、学んだこと、青少年赤十字の目的などについては、考えをまとめておく必要がある。

3. 訪問してから

訪問してから様々なプログラムを通じて感じることを、考えることもある。行った先々でそのつどまとめておく姿勢を持とう。

4. 率直に

率直に思った通りのことを正確に発言できるようにする。発言を控えたり言葉を濁したり、うやむやにすることは、誤解や不信を招くものになるので注意する。

5. 反対意見もはっきりと

相手の考えに反論があれば遠慮せずに、理由と共にはっきりと主張する態度を持つ。謙譲の美德は通用しない。

★通訳してくれる人がいる場合は日本語でも足りるかもしれませんが、十分に準備して自分で発言しようとする意欲が求められます。

●交歓会などで披露する企画の準備

肩の力を抜いて和やかな雰囲気の中で触れ合う交歓プログラムでは、一人ひとりのサービス精神が問われます。

みんなを動かして

ゲームやレクリエーションなどみんながいっしょに楽しめるような、とっておきの企画をいくつか用意しておきましょう。

日本の伝統的な遊びを紹介するのも良いでしょう。日本の歌を英訳して教えるのもおもしろいでしょう。

みんなの前で

日本の伝統的な歌や踊り、昔話の寸劇、楽器演奏、武道や書道の実演などいろいろと考えられます。日本紹介に役立つものを工夫すると良いでしょう。

1. 上手下手は問題ではない

ある程度練習しなければ、きれいに揃わないというものもあるでしょうが、むしろできの善し悪しはみんなを喜ばせようとするサービス精神で決まるものである。

2. わかりやすく大胆に

恥ずかしそうにこそこそやるのではせっかくの企画も台無し。身振り、声はできるだけ大きく、大袈裟なくらいがちょうどよい。

3. 説明しながら

相手にとって珍しいものは、何をやっているのかわからない退屈なものになる可能性もあるということ。

相手の心に正確に印象付けられるよう、的確な説明を用意する。



パーティー

歓迎レセプション、フェアウェルパーティーなど大勢で食事を共にする機会が持たれることがあります。本格的なフォーマルなものというよりは、赤十字職員やボランティア、ホストファミリー、メンバーなどの関係者が集まって、立食形式など自由で気軽な形で行われるのが一般的ようです。

1. 会話を楽しむことが大きな比重をしめる。
2. お互いに何かを披露する時間が設けられることもある。
3. 気の利いたスピーチを求められることもある。
4. 日本人だけで固まるのではなく、一人ひとりが大勢の人と接するようにする。

●自己紹介

どこへ行っても自己紹介は必ずしなければならないものです。自分を効果的に印象づけるには準備と工夫が必要です。

名前を覚えてもらう

外国人にとって日本人の名前は大変覚えにくいものですから、以下の工夫をしてみましょう。

1. 漢字の意味をもとに英訳してみる。
2. 名前の音と類似した英単語で表す。
3. 呼びやすいニックネームを用意する。

人物を知ってもらう

1. 人柄、性格／具体例とジョークをまじえて説明できるとよい。
2. 好きな言葉・色・花・動物・食べ物／なぜ、どういうところが好きかを付け加えるとよい。
3. 趣味、興味のあること、好きなスポーツ

少し味付けして

1. その場の感想を一言付け加える。
2. 日本語のあいさつをひとつ教える。
3. 特技を少し披露する。
4. 訪問国の言葉であいさつなどを入れる。

名前だけしかいえない場合やたっぷり時間が取られている場合など、場面によって時間の長さは様々ですから、その場で内容の取捨選択をすることになります。

自分の紹介ですからメモを見なくてもすらすら言えるようにしておきましょう。

●スピーチ

どんな時に

オープニングセレモニーで親しみこめて
歓迎会や歓送会で感謝の意を込めて
意見交換会や交歓会の始めや終わりに
ホームステイのお別れに個人的に

など

内容は

自分が属するグループを代表して行う。
主催者に対して感謝の意を表す。
参加者との出会いを共に喜ぶ。
プログラムの成果を評価し成功を祝する。
訪問先での印象を述べる。
出会ったエピソードを手短に語る。
他の人々の感想を織り混ぜる。

など

その場にふさわしい、参加者の雰囲気を和ませるような、印象に残るスピーチができるよう周到な準備が求められます。

注意したいこと

1. 冒頭は参加者への呼び掛けで始める

始まる前に主賓の名前と肩書きも聞いておき、呼び掛けに入れる。

2. 形式張ったものよりユーモアのある明るいものが喜ばれる

3. あまり長くならないようにする

短すぎても間の抜けた感じがするが、短い簡潔なスピーチほど喜ばれるもの。5分程度にまとめるのがスマート。

4. ある程度の内容を想定して準備しておく

気の利いたフレーズをいくつも用意しておいて、スピーチが必要となったときにそれらを組み合わせて作れるようにすると慌てずに済む。

5. しっかりしたメモを作りできれば暗記する

6. 間違っても堂々と

照れ隠しや言い訳、間違いや英語の拙さを事前に告白するような前置きは不必要どころかかえって印象を悪くすることさえある。

7. いつでも団長がするものと限ることはない

メンバー中心の場面ではメンバーがスピーチするほうがふさわしいこともある。みんなで協力して作る。

3.

旅行の準備

●服装と履き物

1. 公式行事や表敬訪問では

暑い国なら白いブラウスやワイシャツに、落ち着いた色のスカートやズボンを目安にする。メンバーはネクタイがあればした方がよい。大人は暑い国でもサマースーツを1着持っておくほうが無難。

ワッペンなど青少年赤十字マークの大きいものを着けるのもよい。

2. その他のプログラムでは

訪問国の気候に合わせた普段着の軽装でよい。ただし、あまりに派手なものや暑い国だからといって肌を極端に露出させるようなものは慎む。ファッションによる自己表現も大切だが、動きやすくかさばらないという機能性を重視する。

3. 履き物は

公式行事などで無理に革靴を履かなくても、運動靴やカジュアルなもので代用する。普段の履きなれたものがよい。

4. 工夫あれこれ

野外活動があるときは汚れてもいいように靴や服装を一つ余分に用意する。

陽射しの強い国では長袖シャツのほうが楽なこともある。

日本側が揃いで着れるTシャツなどを用意する。

その国固有の一般的な衣装を購入して着る。

プログラム終了後靴を脱いでくつろげるようにサンダルやゴムゾウリを持っていくとよい。

浴衣をもっている人は交歓会などで着ると映える。



●持ち物

1. チェックリストを作る

忘れものをしないためには事前にしっかりとリストアップしておく。旅行会社が発行している海外旅行手帳などを参考にするとよい。(旅行手配を依頼した代理店で無料でくれる。)

2. 着替えはどのくらい必要か？

個人差があるので一概にはいえない。プログラムに追われる毎日になるので洗濯も思うようにできなくなることが十分予想される。1週間程度なら必要なだけ持っていくのも一つの方法。下着は使い捨ての紙製品のものも出回っている。洗濯ものは暑い国なら室内でも2晩で乾く。

3. 工夫あれこれ

英和和英小型辞書／会話中に辞書を引く暇はないが、渡航中調べものがあつた際に便利。

会話表現辞典／言いたい表現がすぐに見つけられるので利用率が高い。

その国の言語の旅行会話集／現地の人と話しをしなければならないとき、その言葉を知らなくても聞きたい文を示せばある程度意思疎通することができる。

ウェットティッシュ、リンスキン／手や顔を抜くなどちょっとした時に役立つ。特にリンスキンは滅菌されているのでケガをしたときなどにも使える。ポケットサイズのパッケージが市販されている。

小型の懐中電灯、ペンライト／夜間の乗り物の中や暗いところで資料を確認したいときなどに便利。

眼鏡は必ずスペアを持っていく／ハードケースに入れるようにする。

コンタクトレンズは眼鏡に／毎日の洗浄、衛生管理が難しい。

セーター、長袖のトレーナー／暑い国では冷房が効き過ぎてカゼをひくことがある。梅干し、ふりかけ、醤油／どうしても食事が口に合わないときの自己防衛。しかしなるべくその国の料理になれる努力をしよう。

雨合羽／ビニール製の廉価なものがある。折りたたみ傘と共に持っていきたい。

荷作りひも、ガムテープ、安全ピン／思わぬところで役に立つ。

自分の家族や自分たちが活動しているときのスナップ写真、日本の絵ハガキ・写真集／ホームステイ先で見せると話が広がる。

訪問国からの招待状／あれば持って行くと役に立つ場面があるかもしれない。例えば入出国のとき通関などで。

英文の名簿／住所などものを多めに印刷しておく、住所交換などの場面で便利。

●荷作りと携帯荷物

1. 荷作り（大きな荷物）

海外旅行用スーツケースなどしっかりしたものを用意したい／布製のものは切られて中身をとられることがある。旅行カバンは今ではリース業者が増え、安く借りられるようになってきた。

荷作り5原則／重いものは下に、かさ張るものは先に、衣類は丸めて、小物は小袋に入れて、ビン類は衣類にくるんで。

2. 携帯荷物

大きな荷物と携帯荷物／宿舎で使うものは大きな荷物へ、身の回りで常に使うものは携帯荷物へと考える。

携帯荷物に入れるもの／カメラ、資料、筆記具、飛行機内で必要なもの（セーター、サンダル、洗面具）、辞書類、その他各自で考えすぐに取り出す必要のあるもの。液体物は機内に持ちこめないことが多いため、必ず機内に預けるスーツケースの中に入れること。

3. 貴重品の取扱い

貴重品3点セット：パスポート・航空券・現金／できるだけ肌身に付ける。絶対にとられないような対策が必要。

パスポートは各自で管理／人のものを預からない、人に預けない。毎日何回か時間を決めて、あることを確認するくらいの慎重さが望まれる。パスポートを大きな荷物の中に入れて空港で機内預けにしまい、出国手続きができないという事もたまに起きるので要注意。

旅行小切手（トラベラーズチェック）／多額のお金は、現金で持ち歩くよりはトラベラーズチェックにしておく方が安全。紛失・盗難にあっても再発行してもらえる。トラベラーズチェックの番号を控えておくこと。

●海外旅行の基礎

旅券（パスポート）

外国にあって日本政府があなたをあなた本人であると証明してくれる唯一の証拠。またその人の安全のため必要な保護と援助を要請する公文書。これを失くすと日本への入国（帰国）すらできなくなる。紛失したときの再発行のために旅券と同じ写真2～3枚を持って行く。また旅券番号と発行日を控えておく。空港の搭乗手続き・出入国手続き・通関手続き・換金など様々な場面で提示を求められる。命の次に大切なもの。肌身離さず携行すること。最近、日本のパスポートが特にヤミ市場で高額で取り引きされ、偽造されて不法入国などに利用されているので盗難に気をつけたい。

査証（ビザ）

訪問国の空港に着いたところで入国手続きをし入国許可を受けることになるが、一部の国では事前にその国の在日公館（大使館や領事館）によって旅券が正式で有効なものであることを確認されていること（これを査証という）が必要な場合がある。詳しいことは旅行会社に確認すると良い。

予防接種

現在はほとんどの国で不要となっているが、WHO が伝染病汚染地域に指定しているところを通ったり、そこへ入るときには入国時に予防接種証明書（YELLOW CARD）を提示しなければならない。

また、行き先によっては義務付けられていなくとも自分の身の安全のために予防接種をしておいたほうが良いものがある。例えば A 型肝炎、破傷風など。数回に分けて接種をしなければならないものもあるので、なるべく早めに確認し、余裕をもって受ける。

海外旅行保険

死亡・後遺障害、障害治療費用、疾病死亡、疾病治療費用、賠償責任、救援者費用、携行品などの種類があるが、普通これらのすべてがセットされたものに掛けることが多い。掛け捨てなのでためらいもあるが万一の時の出費を考えると掛けておくほうが無難である。

●訪問国へのおみやげ（プレゼント）

ホームステイなどで自分がお世話になった人や親しくなった人に記念にプレゼントするものを用意しておくといよいでしょう。

例えば、クラブのみんなで作った手作りのものや親善アルバム、青少年赤十字マークのついたバッジや小旗など、また小さな民芸品や絵ハガキなども喜ばれるでしょう。個人のおみやげとは別に赤十字社間では、公式のおみやげを用意することも多く、表敬訪問やオープニングセレモニーなどの時に交換することがあります。これは赤十字が用意することになります。

注意したいこと

1. 言葉の不自由な点、交流に自信が持てないところを物をあげることで補えると考えてはいけません。プレゼントは親善ではない。
2. 会う人ごとに端から配るようなプレゼント方法はかえって失礼となる場合がある。
3. セっかくプレゼントをするのだからといって、高価で気軽に受け取れないようなものを差し出すことも相手にとっては戸惑いや誤解を生む。
4. プレゼントすることに気を取られて交流がおろそかになってはいけません。相手は何をくれるのかよりもあなたとの交流に期待している。



4.

海外での行動

●訪問先での生活は

さあ、ゲートをくぐれば目的地。期待と不安は尽きません。どんな生活が待ち受けているのでしょうか。

1. 毎日 24 時間が集団生活

代表団のメンバーといっしょの生活が続く。個人の自由な時間はなかなか取れない。

2. ハードなスケジュールに追われる毎日

朝から夕方までプログラムをこなし、夜は宿舎で明日の準備や身の回りの片付け、ノートの整理と休む暇のないほどになる。

3. 多くの人との出会い

毎日次から次へと様々な人に出会い親しくなる。

4. 異質な環境での生活

生活習慣は勿論のこと、食べ物や街の雰囲気、人々の雰囲気もすべてが異なる環境の中で生活はいやおうなく進む。

5. 日本語が通じない世界

言葉が通じないということがいかに不自由なものであるか実感となって迫る。

6. 危険と背中合わせの生活

少しでも気を緩めれば、事故・盗難・病気など危険は直ぐ目の前に現れる。

あらかじめ予測されるこのような生活の中で、一人ひとりがわきまえ心がけるべきことを考えてみましょう。

●代表としての心がけ

日本の青少年赤十字を代表するメンバーとしてあなたはどんな姿勢を心がけたらよいのでしょうか。

1. 日本の代表としての自覚と誇りを持つ

自分が“日本人”であるということを非常に強く自覚する機会になるので、誇りをもって行動しよう。

2. 何にでもトライするチャレンジ精神

好奇心を旺盛にして貧欲に体験するようにする。

3. 誰とでも積極的にコミュニケーションを図る

人との交流は待っていては駄目。自分から進んで積極的にふるまおう。

4. 人を楽しませるサービス精神

自分から雰囲気作りに貢献するくらいの働きが望まれる。

5. 一人ひとりが責任を持つ

ぶらさがったり頼るのではなく、お互いが自分の責任を果たし役割を担い協力し合う。

6. 健康安全に気を付ける

自分の健康安全管理はもちろんのこと、仲間を常に気遣う思いやりを忘れない。



ノイローゼ防止

自分は大丈夫と思っていても、精神的なプレッシャーから知らず知らずストレスがたまり、身動きがとれなくなることがあります。

1. 気持ちのめりはりをつける

一日一回は自分なりの方法で思いっきりリラックスする。また、逆に思いっきり緊張して意識的に気持ちを引き締める。

2. 自分を見失わない

だらだらと流されたり、気負い込んで無理をせずマイペースを保つこと。

3. 不確かなことはそのつど確認

わからないままやり過すと不安が増すばかりで決してよいことはない。

4. 悩みは抱えないで人に言う

打ち明けてしまうことで気が楽になり、簡単に解決してしまうこともある。周囲の人に自分の心の状態を知っておいてもらうことも必要。

●行動の約束

チームワークが成功の鍵を握るものです。一人ひとりが行動の約束を守る、簡単なことですが旅に慣れが出てくると乱れ、事故に繋がるものです。

1. 単独行動はしない

一人の不注意な行動が全体に迷惑をかけることになる。

2. 声をかけ合う

わかれてどこかへ行くときは、必ず行き先や用事を誰かに告げておく。

3. 時間を守る

特に集合時間などは全体の行動に支障をきたしかねない。ルーズになったときに問題が起こる。荷物、身支度を常にこまめに整理しておくことが秘訣。

4. 情報の風通しを良くする

毎日数分でも全員でミーティングをするとよい。何がどうなっているのか、明日の日程確認など些細なことでも確認・周知する。

5. 思いやり助け合い

わがままを抑えて、相互理解を図る。人の欠点も受け止めるゆとりを持つ。旅にけんかは禁物。未然に回避する努力を一人ひとりがする。

6. 男女の交際は周囲への配慮を

共に生活していれば気の合うもののカップルが生まれることもあるかもしれないが、集団生活の規律とエチケットは守って行動すべきである。



役割の分担

特殊な環境の中で集団がひとつの目的を遂行していくには、合理的な集団運営が必要です。

主役は青少年赤十字のメンバーですが、指導者も単なる引率者に止まらず代表としてメンバーと同じ立場にあります。全員が役割を分担した上で、お互いに協力し合います。

団長／最終的な意志決定の責任を持つ。全員の取りまとめ役であり、チームの顔となる。

渉外／団長を補佐して生活やプログラム進行上の対外的な交渉をする。

生活／食事や宿舎生活関連の情報を集めて連絡するペースメーカー。

交流／プログラムに対処する。内容を確認して必要な準備を促す。

記録／カメラやメモなどでリアルタイムに記録を取っていく。

保健／全員の健康管理。救急箱を管理し、時にはカウンセリングも行う。

※大人数であれば小グループに分けてそれぞれに責任者を決めておく。

●安全な旅行のために

海外旅行では注意しなければならない常識がいくつかあります。基本を守っていれば決して簡単には事故に遭うものではありませんが、まさかという気の緩みが思わぬことを引き起こします。

ホテルで

1. ホテルのロビーや廊下は外と同じで、誰が入ってきても不思議はない。ドアをロックされてもうかつに開けない。ドアチェーンをかけておく。
2. 室内に貴重品を放置しない。ルーム係に取られることがある。ホテルはいったん客に鍵を預けたら一切の責任を負わない場合もある。
3. ホテルのロビーや空港など、人の集まるところには必ず物取りがいると思って気をつける。

持ち物

1. 身の回りに絶えず気を配る。何かに気持ちが向いているときにスキが生まれる。
2. 自分の荷物から目を離さない。
3. 現金や財布を人前で出さない。

外で

1. 交通事故に注意する。概してどこの国も運転が乱暴である。
2. スーツケースなど預ける荷物に貴重品を入れない。鍵はあっても簡単に開くものである。
3. 見知らぬ人から物を預からない。犯罪に巻き込まれる場合がある。
4. 物売りに関わらない。はっきりノーと言う。子供だからと気を緩めるのは危険である。
5. 撮影禁止の標識に気をつける。うっかりカメラを向けると大切なフィルムを没収されることになる。
6. トイレで一人になることは非常に危険である。
7. 見知らぬ人で親しげに近寄ってくる人はまず要注意。子供も油断してはいけない。
8. バックを車道側に持っているとき走り中の車から取られることがある。

日本人は、多くの現金を持ち歩いていると思われているので、それだけ狙われる確率も高くなります。訪問国の赤十字社の人達といっしょに行動しているときは大体安全だと考えてよいでしょう。危険なのはその集団から離れて個人行動をする一瞬や、プログラム終了後フリーな時間の中で行動するときです。

●案内されて～表敬訪問・施設見学の心得～

エチケットやマナーを重視して行動するようにします。

1. レディーファーストを体に覚えさせる

日本人は男性も女性もレディーファーストが一番苦手なマナーの一つ。急にできるものではないので、日頃から意識して行動するようにしよう。

2. 落ち着いて自信を持って振る舞う

いたずらに緊張しても仕方ない。対等な立場で相手に敬意を表するのであって、萎縮する必要は全くない。

3. 笑顔を絶やさず明るい印象を与える

4. 話は良く聞く

聞いても聞かなくてもどちらでもいいような態度は相手に失礼となる。わからなければ曖昧にしないで聞き返すことも礼儀のうちと心得よう。

5. 質問をする

説明を聞いたらず質問をすることもマナーの一つといえる。関心を持って聞きましたという意思表示にもなる。

6. 感謝する

案内してくれる人、そこにいて仕事をしている人、車を運転してくれる人、道を譲ってくれる人などにいつでも気軽に一言サンキューと声を掛けるようにする。

7. 写真は必ず了解を得て

撮ってよいかどうかを聞くこともエチケットである。また、その場の状況を良くわきまえて撮るようにしたいもの。あなたはマスコミの取材陣ではないのだから。

●みんなが参加して～交歓会・キャンプ～

ひとつひとつのプログラムを成功させるためにどうしたら良いかを考えながら行動します。

1. 一人でも多くの人と触れ合い、会話する

全員の名前と顔を一致させるくらいの意気込みで、プログラムに臨もう。

2. あなたはお客様ではない

訪問先では周囲の人々があなたをお客様として接してくるかもしれないが、あなたはプログラムをいっしょに作る協力者だと自分を考えるようにする。

3. どんなことをするのかよく聞く

プログラムの内容をよく理解して必要な準備や心構えをする。

4. 日本人だけでかたまらない

交流が目的なのだから積極的にみんなの中に入るようにする。



写真を撮る

写真は記録として非常に有効な手段です。しかし同時に物事を見えにくくするものでもあります。いつも写真を撮る事に気を奪われてしまい、後で思い返すと常にファインダーからしかものを見ていなかったということにもなりかねません。

生きた観察は何ものにも囚われない自由な目から得られるものでしょう。最も大切なものに気づかずに帰ってくるのでは大変もったいないことです。カメラとは上手につきあいましょう。

●ホームステイでお世話になる

限られた訪問日程ではホームステイは1～2泊程度が一般的です。相手は国際交流に寄与しようとするボランティアな家庭ですから、家族の一員として積極的に打ち解けるようにしたいものです。

1. 家族の名前はすぐに覚えて名前と呼ぶようにする

2. わからないことは何でも遠慮せずに聞く

トイレや浴室、寝室の使い方、食事の時間など何でもわからないことは聞くようにしましょう。失礼にはならない。

3. 食事は出されたものは何でも食べるようにする

その国の家庭料理が味わえるチャンスだ。ただしよほど口に合わないものがあれば正直に話して断る。

4. 常識的なマナーを守る

他人の家に世話になるのは日本でも外国でもことさら違いがあるわけではないのだから、常識的なマナーに従う。

5. 家事を手伝う

全くのお客さまではなく、手伝わせて貰えることがあれば積極的に申し出る。

6. 家族との会話を楽しむ

あなたとの交流を楽しみに待ち望んできた家庭なのだから団欒を楽しむようにする。

7. 希望を聞かれたら遠慮なく言う

食事の内容や翌日の案内先などあなたの希望に即してくれようとする場合、素直に好意を受け入れる。

8. 経費の確認

ホームステイは受入れ家庭が経費負担をしてくれるのが一般的。しかし、外出したときの交通費や入場料、食事代などは決して当然のように考えないで自己負担した方がよいか確認する。

9. 住所・名前を聞いておく

帰ってから手紙を出せるように住所や名前を確認し書き留めておく。

10. プレゼントはお別れのときに渡すとよい。

●健康管理

自分の健康は自分で責任を持つのが大原則です。

1. 寝不足は万病のもと

睡眠を十分とっていればほとんど病気の心配はしなくてよいと言えるくらい。

2. 生もの、水には厳重に注意

その国に生まれ育った人とは免疫が違うということを承知しておく。

街中の屋台で売っているような食べ物はなるべく避ける。ホテルでも水道の水は飲み水ではない。

氷も注意した方がよい。炭酸飲料は安全と考えてよい。

3. 暑い国ではクーラーの利きすぎでカゼをひくことがある

4. おかしいとおもったら早めに対処する

旅先で体調を崩すのはごく普通のこと。いかにはやく回復させるかが重要。

他の人達に迷惑を掛けるからとそのままにしておいて、かえって重くしてしまうことがないようにしよう。

5. 常備薬

日頃使い慣れている薬があれば持っていく。ただし、湿気などに対する品質管理がむずかしく、麻薬などに間違われるのも困るので粉薬は避けるようにする。



5.

帰国したら

●帰国してすぐにあること

1. 健康状態を確認する

解散する前に全員の健康状態を確認しておく。帰宅したら体を休める。

2. ノートのつき合わせをする

記憶違いや取り違え、不明な点をなるべく解消するために、解散する前にお互いのノートのつき合わせをしておく。後で自分の記録をまとめる時に役立つ。

3. 帰国のあいさつに出かける

なるべく早い時期に学校長や担任、日赤の各都道府県支部、その他関係者に無事帰国したことを報告にいく。日赤の支部では報告を受けてから、本社と相談して相手国赤十字社に公式の礼状を出すことになる。

4. 礼状を出す

訪問先で親しくなった人やホームステイ先にお世話になったお礼の手紙を書く。

5. 資料の整理をする

資料やノートの整理をして報告書作成の準備に入る。

●今後の取り組み

1. 体験に基づいて考えたことを周囲に伝え、問題意識を広める

2. 訪問国や交流活動に関連した学習を続ける

3. 日常の青少年赤十字活動に自分の体験をどう生かせるかを考え続ける

4. 訪問国の人々と可能な限り交流を続ける

●報告書をまとめる

しっかりした報告書をまとめることは非常に重要な仕事になります。行ってきたまま、体験したままでは困ります。

1. 体験の記録

記憶の新しいうちにノートを整理して、体験してきたことを細部にわたって記録する。

写真は場面ごとにメモをつける。

2. 考えをまとめる

体験をもとに自分が学んだこと、感じたこと、疑問に思ったことをまとめる。

自分なりの結論まで導き出せればなおよい。

3. プログラムを評価する

プログラムの目的や自分が立てた目標がどの程度達成されたか、不十分であった原因は何かなどを考察する。

4. 報告書の柱だてを決め、執筆する

報告書はとかく億劫なもので、後回しにすればそれだけ執筆意欲が落ちてくる。上記1, 2, 3をもとに柱だてを決めたら一気に書き進める。分担執筆でも分担だけを書いてよしとしないで、自分の記録としては全容を残しておく。



報告会などでの体験発表は

国際交流プログラムを体験した自分とそれを知らない聞く側の人々との意識のギャップを承知しておく。

その上でどう伝えるかを明確にして臨む。

ただ単に体験を披露するのではなく、体験を通じて得た問題意識を聴衆に理解してもらえよう努力する。

国内編

KOKUNAIHEN

海外から青少年赤十字の 代表を迎える

来日する海外からの代表は様々な期待と不安を抱えてきます。

受け入れプログラムを計画する人や
それに参加する人は、迎える側としての
しっかりとした心がまえを持ちましょう。

1. 有意義な交流のために

●受け入れプログラムの意味

1. 日本を知ってもらう

日本人の生活や考えかたを身近に体験し、日本への理解を広める。

2. 青少年赤十字の連帯意識を培う

お互いの青少年赤十字活動を紹介しあい、活動に対する考えを交換しながら赤十字の理念のもとに連帯意識を培う。

3. 交流を通じて国際感覚を身に付ける機会にする

海外からの代表を通じて相手の国を知り、異文化との出会いの体験から国際的なものの見方を学ぶ機会にする。

●迎える側の心がまえ

1. 来る人の身になって思いやり、不安を取り除く

直接触れ合い親密な交流を図る

2. 思ったままに率直に触れ合う

3. 迎える側の一人ひとりも日本の代表として振る舞う

4. 普段の生活そのままに受け入れ、よそ行きでない普段着の交流をする

お客様や特別扱いをしないで仲間・友人として迎える

5. 日本人だけで交流するのではなく、自分たちの輪の中へとけ込めるようにしてあげる

●知っておきたいこと

海外から青少年赤十字の代表を迎えるにあたっては、プログラムそのものの準備はもちろんのこと、次のことは最低限、事前に学習しておくべきでしょう。

1. 来日する海外代表メンバーなどの国について概要を知る

当該国についてできるだけ詳しく調べてみる

2. その国の言語であいさつ程度は言えるようにする

3. 質問したいことをまとめておく

質問のしかたは「日本では〇〇ですがあなたの国ではどうですか」というように、日本のことも説明しながら聞くと親切

4. 日本についての認識を深める

特に迎える地元のことはよく調べておく

5. 日本について紹介・説明できるようにしておく

自分が海外に派遣される場合とは多少事情が違いますが、「海外編 2. 事前学習・準備の進め方」に書かれていることを参考にして必要な準備を計画しましょう。



●プログラムを計画する前に

受入プログラムを計画する際に、また参加する人達で何回か打ち合わせ会を持ち、基本的な考え方を確認しておきたいものです。プログラムそのものも大切ですが、計画の過程で多くの学びが期待できます。

1. 受入の目的をよく理解する

このプログラムを通じてお互いがどのようなことを得ようとしているのかを明確にし、うわべだけの時間つぶしの交流会にとどまることがないようにする。

2. プログラムに主張を持たせる

相手にどんなことを知ってほしいのか、相手から何を引き出したいのか、共に何かを作り上げようとする明確な方向性を持ってプログラムを企画したい。

また、統一テーマやキャッチフレーズを考えてみるとよい。

3. お客扱いはしない

とかく日本人にとって外国人は珍しいもの、という感覚は抜き難いものがある。せっかく来た外国のお客様だからといって、歓迎会や交流会と称して一段高い所に持ち上げてしまいみんなで眺めてばかりというプログラムには決してしないようにする。

4. 問題意識を持つ

お祭り気分に入っているのではなく、迎える一人ひとりがしっかりした問題意識を持って、より有効なプログラム作りをめざす意欲が求められる。

5. 同じ年令層のメンバー同士の交流を重視する

2. プログラム作り・参加の仕方

●学校に迎える

1. 歓迎

型にはまった挨拶を何人も繰り返すなどと形式にこだわるのではなく、全校生徒が暖かく迎えているという雰囲気を伝えることが大切。セレモニーは校庭でにぎやかに簡単に終わらせるなど工夫をしたい。

2. 普段の学校を

丸一日、普段の学校生活を送ってもらう。一緒に授業を受け、給食を食べ、掃除をして、クラブ活動をする。あえて特別なプログラムを用意しなくても十分日本の学校を紹介できる。

3. 特別講義をしてもらう

その国の概要や言語、学校や青少年赤十字活動などについて講義してもらうとよい。また、お返しに日本のことをみんなで分担していろいろ教える。

4. 青少年赤十字活動に参加してもらう

学校で日常行っている青少年赤十字活動があれば一緒に行う。

5. 全校生徒や地域へPR

全校生徒に事前にアピールして意識を持ってもらったり、これを機会に校内や地域に青少年赤十字のPRをすることに役立てる。



●トレーニング・センターに迎える

トレーニング・センターにはそれ自体、リーダーシップ養成という大切な目的があるので、そのためにどう生かすかと考えるべきでしょう。

1. 参加者のひとりとして迎える

本人にとっては日本のトレーニング・センターのしくみを体験し学ぶ絶好の機会になる。ここで得たものを自分の国に持ち帰って生かすこともある。一部を見せるといよりも全日程に参加させたい。

2. トレーニング・センターのプログラムに生かす工夫

海外からの代表に活動の紹介をしてもらい、日本の活動との違いを考え、みんなで活動のありかたを話し合うなどトレセンに生かす工夫をする。しかし、すべてのプログラムで常に海外代表メンバーなどを中心にしようとする必要はない。

3. 生活をフォローする

世話係りや通訳に任せてしまわないで、自然に生活できるように周囲の誰もが気遣うようにする。それもまたトレセンの学びになる。

4. 共に学ぶ

国際理解・親善の“生きた教材”などと考えてこちらが一方的に利用するというのではなく、寝食を共にし、協力して何かをすることを通じて深く交流し、お互いに学び合うという姿勢を持つ。



●日常活動に迎える～活動交流～

クリーン・アップ活動や施設訪問、迷子相談、街頭献血の案内など日常行っている青少年赤十字活動に参加してもらうと、日本の青少年赤十字活動を直接に体験・理解してもらう良い機会になります。

1. 見学ではなく実際に取り組んでもらう

見ていて通訳が説明するというのではなく、海外代表メンバーなどにも役割を持たせて一緒にしてもらう。みんなで協力する作業の中で交流が深まる。

2. 事前の説明を丁寧に

活動に入る前に、その活動のねらいやどんなことを具体的にしているのか、これまでにどんな成果が上がっているのかななどを説明する。

3. その体験を意見交換会などに生かす

活動後には評価会や意見交換会を持つようにするとよい。そこで体験を通じて感じたこと、お互いの活動の類似点や相違点などを話し合い、外国の青少年赤十字や相手の目に映った日本の青少年赤十字活動を知る機会にする。



● 討論会・交歓会

お互いに赤十字の将来を担う若者として、しっかりしたテーマで意見を交わすことも非常に意義あることでしょう。

1. 討論テーマを決める

赤十字やボランティアに関すること、社会における若者の役割、今日的な問題などいま一番関心のあることをテーマにする。

2. そのテーマを設定した趣旨説明ができるようにする

3. 相手にはある程度の準備の時間を用意する

4. はじめにお互いの活動紹介をする

いきなり討論に入るよりも導入的な意味で役立つ。

5. 必ずしも結論を必要としない

結論を出すよりはお互いの今後の活動を約束し合うような共同ワークショップをやるのもよい。

堅い話の後にはリラックスした和やかな雰囲気の中で、お互いの文化を紹介したりゲームを楽しんで一時を過ごしても良いでしょう。

6. 交歓会では

ゲーム、レクリエーション
文化紹介、踊りや歌の披露
若者の生活、嗜好などの紹介など

楽しみながらお互いを知り合う企画を工夫する。

軽食などを取りながら、あるいは一緒に料理を作りながらでも良い。

●案内・見学

毎日いろいろなところを案内されてばかりでは退屈なものになります。表敬訪問ばかりでは窮屈です。実質的な交流が深められるようにしたいものです。

だからといって、次のようなプログラムも決して軽視せず、うまく組み込んで行くべきでしょう。本人にとっては必要な日本理解の一つとなります。

1. 赤十字施設の見学

支部、血液センター、献血ルーム、赤十字病院など。

2. 赤十字活動の見学

災害救護訓練、巡回診療、救急法や家庭看護法の講習、訪問看護、病院ボランティアなど。

3. 観光スポットの見学

伝統的なものや現代的なものなどの中から、日本の姿やその土地独特の雰囲気が伝わるものがよい。日本人にとっては観光名所でも外国人にとって必ずしも興味を示さない物やまたその逆もあり得る。

4. ショッピング、自由時間

海外からの代表も自分の国へお土産を買って帰ることがあり、また、自分のノートを整理したり一人になる時間も必要となる。本人の希望を聞くようにする。



上手なエスコート

1. 強制しない

見てほしいという、こちらの意向は正しく伝えても、相手の意にそぐわないものは避ける。

2. 盛り沢山にしない、引き摺り回さない

欲張っても本人に苦痛であっては案内する意味がなくなる。

3. 説明不足にならない

そこがどんな意味のあるところなのか説明がたりなくて伝わっていないことがある。

4. 経費負担の区別は始めに確認しておく

5. 同行する日本人同士だけで楽しんだりしない

●プログラムに参加する人は

1. おもてなし役ではない

身の回りのお世話をするために接待役として参加しているのではない。もちろん丁寧に面倒を見てあげる必要はあるが、自分も相手と同等の立場でプログラムに参加するという姿勢を持つ。

2. いっしょに考え、いっしょに作る

誰かに任せるのではなく参加した以上は自分もプログラムの進行に責任を自覚する。何をするプログラムが始まる前によく承知しておく。傍観者や単なる聴衆になってはいけない。

3. 大人に頼らない

メンバー同士の交流はメンバーが主体的に進める。大人や通訳に頼ろうとしない。

4. 画一的な結論を求めない

いったん交流が始まればどんなに大きな成果が出てくるかは予測できない。また、それを期待して好奇心を持って参加する。

5. プログラムは手段

プログラムは方法、手段であって目的は相互理解にあることを忘れない。



通訳者の心得

討論会などしっかりと通訳しなければプログラムそのものになりたないというところでは通訳者に徹する必要がある。しかし、交流場面ではなるべくメンバー同士で直接会話させる。わからない部分は間接的にアドバイスしてあげる。仲介するのではなく、表現について後方から支援する。

●記録をとる

個々のプログラムはしっかり記録を取っておきましょう。

1. 日程の記録

なるべく細かく時間を追って記録しておく、移動や準備に要した時間など後で役立つデータが残る。

2. 写真を撮る

学校新聞などで報告する時のことを意識して写真を撮る。

3. プログラム内容の記録

討論内容、活動紹介の内容など克明に記録する。スピーチや発表などは原稿のコピーをそのまま集めておくといよい。

4. エピソード収集

関係者が体験したおもしろいエピソードを収集できるようにしておく。

5. 関係者の感想文

後日提出してもらえようにする。海外の代表には滞在中に書いてもらう。

6. 関係資料の保存

特に海外代表が持ってきて配った資料などは集めて保存する。



3. わが家に迎える～ホームステイ～

●ホームステイのねらい

1. 暮らしの中の国際交流

家族ぐるみで心と心をつなぎ、日常生活での友好を広げる場。
赤十字をベースにして、お互いの尊敬と信頼を身近に築く。

2. 異文化との出会い、国際化の体験

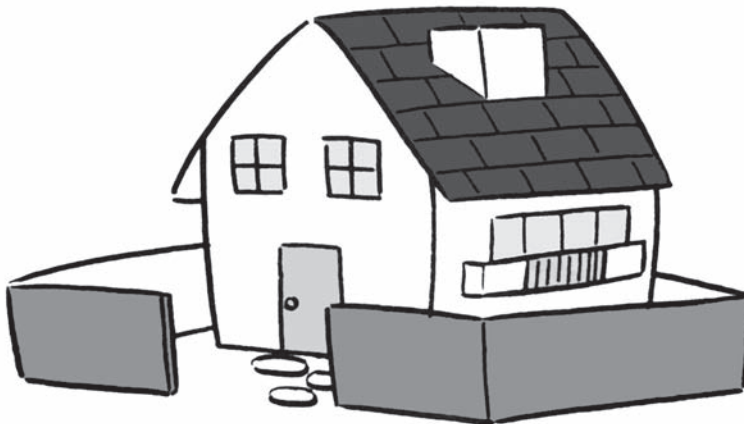
お互いの異質な文化が生活レベルで出会う機会。お互いの文化を尊重し素直に受け入れ、国際感覚をみがく場。

3. 日本の家庭紹介

一般的な日本の家庭生活を紹介し、日本理解の一翼を担う。

4. 家族ぐるみでボランティア体験

ホームステイそのものが立派なボランティア活動であり、家族みんなが国際親善に貢献する喜びを体験する。



●ホストファミリーの心得

1. 普段の生活そのままに受け入れる

普段の生活を紹介するのがホームステイの目的なのだから、外国人だからと特別なお客様のように扱うことは全く必要ない。

2. 相手の文化を尊重する

その人の持つ生活習慣や宗教などは日本人には理解し難いものも多くある。郷に入っては郷に従えと、こちらの価値観を強制してはいけない。

3. 語学力よりも友情を結ぼうとする心

家族一人ひとりが暖かく受けとめ、語りかける。日本語でも気にしないで語りかけているうちに感情は伝わるもの。身振り手振りでいいから家族全員がコミュニケーションに参加する。

4. 家族の相互協力

誰かに任せきりにするのではなく、家族一人ひとりがホームステイの意義を理解して、役割を分担し、協力することが必要。

5. 自分の家の生活リズムを守る

一晩だけだから、特別の日だからといって、無理な受入れはすべきでない。



●出迎えからお別れまで

ホームステイといっても一体どんなことをするのかと、とにかく難しく考えがちです。普通に人を招くと考えていればいいのですが、次のようなことに注意しておけばよいでしょう。

1. 受入れが決まったらその国の知識を得る

特に宗教については正しい知識を得ておきたい。

国や人数、性別など希望があれば主催者側にはっきり告げておく。

2. 到着したら家の中を案内する

浴室・トイレ・各部屋の配置を見せる。本人が泊まる部屋に案内して、荷物を降ろしひと休みさせる。

3. なるべく早くに家族全員を紹介する

こちらから簡単な質問をしてあげる。リラックスさせるのがこのときのホスト側の仕事。

4. 風呂・トイレ・寝室・寝具・スイッチの使い方を説明する

わかっているようでいて一番トラブルがおきやすいのでしっかり理解させる。

5. 食事

家族全員が席に着いていっしょにとる。楽しく、しかし、いつまでもだらだらと宴会のように長引かせない。

食事の制約は日本人の想像以上のものがあるので無理強いしない。

日本食のほかに、別種類の料理も用意しておく。

6. かたづけ

本人が手伝いを申し出れば喜んで協力してもらう。何かをしながらの交流が意外により雰囲気を作り出す。

7. 食後のくつろぎ交流

話題の一方的な押し付けにならないように気を付ける。質問には丁寧に答えてあげる。家族同士の会話も相手がわかる言葉であるのが良いが、それが無理ならそのつど何を話しているかを通訳してあげる。また、無理やり遅くまでつきあわせないで程々の時間でひとりにしてあげる。

8. 就寝前に

必ず翌日の日程の再確認や朝食の時間と場所を知らせる。

9. プレゼント

金銭や高価な物のやり取りはしないのがホームステイの原則。それでも我が家訪問の記念にと何かをあげようとするならば荷物にならず相手が気軽に受け取れ喜ばれるようなものを工夫する。

通関手続きなどに関係しないものにするのはいうまでもない。いよいよお別れという最後のあたりに、さりげなく渡すようにする。

●健康・安全

1. 交通事故に気をつける。

2. 疲れているようであれば、外出を取り止め、休ませる。

3. 万一具合が悪くなっても安易に薬を飲ませず、医師に診せる。

4. 事故やケガをしたときはそのときの経緯をなるべく克明にメモしておく。

5. 万一の時の連絡体制を主催者側とあらかじめ確認しておく。

●案内・観光

ホストファミリーの案内で近くを観光することがよく行われます。

1. プランを立てる

どんなことをするか、どこに案内するか、他のプログラムとの重複も考慮しながら無理のないものを大まかに計画する。

2. プランを説明する

細部まで決めてしまって押し付けるのではなく、希望や意見を聞くようにする。本人に希望があってそれが無理なものでなければかなえてあげると良い。

3. 地域の特徴を生かす

地元の産業を見学したり、伝統的なものを見せる機会があるとよい。また、特別なものを探さなくても盆踊り、花火、祭りなど、どこでも行われるようなものでもよい。

4. ショッピング

希望があれば相談にのってあげる。近所の商店街を見て歩くだけでも生活の匂いに触れることができる。この時、何かを一方的に買ってあげるということにはなるべく慎むべき。

5. 日本の自然に親しめるようなもの、季節感を味わえるようなところも良い

6. 日本人のペースだけで進めない

立てた予定は何がなんでも消化するというような欲張り方や分刻みのようなスケジュールは、かえって迷惑となる。

7. 宗教施設の見学は良く説明して本人の意志を確認してからにしよう

思わぬところで相手の信仰を傷付けることにもなりかねない。

●生活習慣の違い

生活習慣の違いがあるということを承知しておかないと、変なところで驚いたり小さなトラブルが蓄積して帰るまでに許し難いというほどの感情の行き違いにまで発展しかねません。これは双方にとって不幸なことです。

1. 入浴

人前で決して裸にならないというのは日本人には不思議でも多くの国では当たり前のこと。彼等にとっては他人と一緒に入浴するなど、とても耐えられない習慣に映る。湯に浸かるという習慣もないし、浴槽の湯を他人と共用することも考えられないこと。

シャワーであっても暑い国の人々はお湯を使う習慣がない。また必ずしも寝る前とは限らず、朝起きた時や昼に浴びる習慣もある。

2. トイレ

使用後の処理は紙を使わず、手と水で洗い流すという習慣がアジア地域では一般的であるといわれる。この点はどのような方法をとるか、はっきり本人と確認しておきたい。

3. 靴を脱ぐ

家に入るとき、どの時点で靴を脱ぐかも文化の違いが現れるところ。玄関のドアの前で脱いでしまう場合もあるし、土足のまま平気で上がられてしまうこともある。濡れ雑巾を1枚用意しておくといよい。きちんと説明をしよう。



4. 物の貸し借り

貸しただけのつもりが持って帰られてしまうというトラブルが時々起こる。物の所有意識が曖昧な文化があることも事実。物を貸した時は後で返してもらう物だということをはっきりさせておくか、忘れずに帰る前に返してもらうこと。

5. 左手は不浄な手

握手はもちろん、食事などでも一切使わないことがあるので注意したい。

6. 頭に手を触れない

頭には神様が宿っているとして人に触れられることを非常に嫌う習慣がある。大人の頭を触るなど常識では行わないものだが、かわいい子供だと無意識にやってしまうことがあるから気を付ける。

7. 食事

宗教上の戒律により食べてはいけないものがある。一般的にはイスラム教徒は豚肉（他の肉でも教えに従ってお祈りをしたうえで食肉処理したもの以外は受け付けられないこともある）、ヒンズー教徒は牛肉（牛革製品すら持つてはいけないこともある）は食べない。また、菜食主義（ベジタリアン）といってすべての生き物を食べない人々がいる。詳しいことは率直に本人に確認するのが一番よい。

これらの生活習慣は国によっても宗教によっても異なりますから、上記にあげたこと全部がすべての外国人にあてはまるわけではありませんし、この他にも私たちと違う生活習慣はたくさんあります。よく話し合うことでトラブルを避け、双方にとり異文化を体験するよい機会としましょう。

●経費の負担区分

ホームステイは、ボランティアであり、経費は原則としてホストファミリーが負担すべきものです。ただしこれは本人に何も持たせてはいけないということではありません。本人の負担とすべきものは次のような場合でしょう。そのつど事前に本人としっかり確認するようにします。

1. 本人の希望で取り入れたプログラム

本人分の映画や遊園地の入場料、観劇、見学料金。またこのために必要となった交通費。

2. 本人の必要で買ったもの

カメラのフィルムやノート、筆記具、飲み物など、これらの品物は一時立て替えてしまうことがよくあるが、必ず帰るまでに精算しておくこと。あとあと気持ちの上でしこりが残る。

3. 国際電話料金

少しの通話でも金額がかさみ、トラブルの種になりやすいのであるべく緊急以外は家の電話は使わせない方がよい。

4. 診療費用

本人が払えるようであれば払わせる。また、本人が払う時も、立て替えて支払う時も必ず領収書を取る。旅行傷害保険にはいっていれば後日そこから支払われることになる。

相手国と日本の物価が非常に掛け離れていることを受け入れる側も十分認識しておくこと。

また、本人が子供だからということで丸抱えすることがありますが、対等な立場での国際交流ということを考えれば決して好ましいこととはいえないでしょう。



4.

終了したら

1. 反省会を開く

企画の関係者が集まって、うまくいったところやそうでなかったところをまとめて、受入れプログラム全体を評価する。学んだことなどを出し合い、次回のための改善点を整理しておく。

2. 記録をまとめる

関係したところをそれぞれ分担して記録を集大成しておく。特にホームステイの記録が残りにくいので、今後の役立つ提案などを収集しておく。記録は単なる保存ではなく経験の蓄積として重視したい。

3. 関係者へ礼状を出す

ホームステイ宅や見学先など、受入れにあたってお世話になったところへ企画者が代表して礼状を出し、次回の受入れのためにパイプをつないでおく。

4. 学習を続ける

来日した人をきっかけに、招いた国を忘れず関心を持ち続け学習を広げていく。

5. 交流を続ける

来日した人やその人が通う学校とアルバム交換などを通じて交流を続ける。

6. 活動との結び付きを考える

今回の体験をどうすれば活動に生かして行けるかを考えていく。

コミュニケーション編 COMMUNICATION

コミュニケーション をとる

海外の青少年赤十字メンバーや指導者などとの
交流を深めるためのヒントや、
交流を促進するための親善品の作成
及びメールや手紙の交換について
紹介します。

●語学力を心配する前に

1. 誰にでも明るく、笑顔で

相手が話しかけやすい雰囲気を自分で作り出そう。
ただし無意味な照れ隠しの笑いは慎む。

2. 目と目を合わせて

通じない、わからないと思ひ込まないで、伝えたいという意欲を持つ。相手の表情からわかろうとする姿勢で臨む。

3. 誠意を持って

ほんの一言のやり取りもおろそかにしないで、誠実でありたい。

4. とっておきの言葉を用意する

その国の言葉でもジョークでも、これなら誰にでもかならずうけるという言葉を用意して話のきっかけにする。

5. 身振り、手振り、絵をかく

アイデアを出してあらゆる伝達方法を駆使してみよう。



●充実したコミュニケーションをめざして

1. 話す中身を持つ

伝えたいこと、感じたこと、聞きたいこと、考えたいことを明確にしておく。コミュニケーションにはどれにもかならず目的がある。

2. 体験にもとづく

知っていることではなく体験したことが大切。はっきりとわかりやすい内容を自分の体験にもとづいて論理的に構成する。

3. 場面を想定して

いろいろな場面を想定して、必要になりそうな言い回しはあらかじめ調べておく。

4. コミュニケーションは双方向

質問に対しては求められている答え以上のことを相手に伝え、相手の質問に答えたらこちらからも質問を投げかけることで会話は豊かに広がる。

5. ノン・バーバル（非言語）コミュニケーションを活用する

表情やしぐさなど言葉意外の非言語的要素が伝える内容は、コミュニケーション全体の60%以上を占めると言われている。これをもっと意識的に活用する。

6. 相手に期待する

コミュニケーションでは、自分の表現力の限界を、相手の理解してくれようとする姿勢が補ってくれることがよくある。

あとは少しの勇気とあなたの人間性で体当たりすることです。相手はきっと大きく受け止めてくれるでしょう。

●話せる英会話のためのヒント

日常会話は、中学校で習う英語でかなり間に合うと言われます。実際の場面でどれだけこれが活用できるかが問題です。

1. 言い換える1

言いたいことが英語で直ぐに出なくても、近い意味のより簡単な言い方に日本語を置き換えてそれを英語にしてみる。小さな子供に説明するように。

2. 言い換える2

言いたいことを直接表現しようとしなくて、例や情景描写などを用いて具体的に分解しながら自分が言える表現を探す。

3. 疑問詞を使った疑問文をたくさん用意しておく

辞書から疑問詞の例文を抜き出しておく意外と使えることがある。

4. 単語会話のすすめ

必ずしも完全なセンテンスでなくても必要な単語を言っただけで通じる場合がある。会話は生き物。知ってる単語をフルに使ってみよう。

5. 文法にこだわるな

文法は言葉のルール、大切なものだがルールにこだわると動きが鈍る。生きた会話では文法の間違いはほとんど理解の妨げにはならない。

6. 言葉に詰まっても黙り込まずに、答える意志があることを伝える

英会話の書籍を新たに買い求めるだけではなく、中学校の教科書を総復習することも大事なこともかもしれません。

●親善品の交換をしてみよう

世界にはまだインターネットでのアクセスはもとより、私たちが容易に行くことのできない国がたくさんあります。これらの国の青少年赤十字メンバーと親善品の交換をすることを通して、今世界の仲間がどのようなことを考えながら生活しているのかを知ることができます。ここでは、トピックアルバムを紹介します。

1. 楽しいアルバムを作ろう

写真や図表、イラストなどを使って日本の生活や文化、私たちの学校や地域の様子、青少年赤十字活動などを伝えよう。

アルバムの標準的なサイズは、縦 25.5 センチ×横 62 センチの厚紙を三つ折したものである、(各都道府県支部を通じて入手することができます) テーマを絞って効果的な紙面構成にする。メンバー同士で手分けをして資料収集に取り組むのも良い。

2. テーマの一例

- 私たちの学校（学校行事、青少年赤十字活動など）
- 私たちの町（観光名所、特産物、お祭りなど）
- 日本の生活・行事（お正月、ひな祭りなど）
- その他（日本の芸能、スポーツなど）

3. 視覚に訴えるよう工夫する

海外のメンバーが楽しく見られるように、色彩豊かに、イラストや写真を使用する。また、作成したメンバーの写真や自己紹介が載っていると、受け取った海外メンバーにも身近に感じてもらえる。

4. 説明文をつける

写真やイラストには必ず説明文をつける。できるだけ英語で記入する。日本語での説明は、必ず英語訳の書き込めるスペースを取る。

5. 送るときのことを考える

立体的な作品や、B 3 以上の大きな作品は海外に送れないことがある。また、コインやバッジを貼り付けると、重量が増え、送付が困難になることがあるので要注意。

6. アルバムを送る

特定の国にまとめて送るほうが効果的なので、1 カ国あたり 10 冊以上として、日本赤十字社の各都道府県支部に送る。海外メンバーが返事を出せるよう、作成したアルバムには必ず、英語で学校名や住所を記入する。

●メールや手紙の交換をしてみよう

郵便での手紙の交換は勿論のこと、日本や海外の幾つかの国では、インターネットが学校や各家庭にも普及され、情報の交換は実に頻繁になってきています。メールの交換を始める際には、親善品の欄を参照して、技術的な面からは以下の点に気をつけてはじめるようにしましょう。

1. メール交換を始める前に

メール交換を始める前には、一度日本赤十字社各都道府県支部に相談してください。日本赤十字社とメールを交換する国の赤十字・赤新月社との間で相談します。

2. テストメールを送ろう

日本赤十字社各都道府県支部から、メールを交換する学校についての連絡がきたら、自分の学校と相手校にあるそれぞれのコンピューター環境の確認のため、テストメールを送付します。

アルファベットで1,000字程度の文章を作ってみましょう。

その際、半角文字の入力になっているか確かめましょう。(アルファベットでも、全角文字になっていると受け取るほうは読めません。)

また、貼付ファイルも使用してみましょう。



和英用語集

日本語	英語	日本語	英語
■組織■		■国際活動■	
社員	Member	国際救護	International relief
代議員会	Board of Representatives	医療チーム	Medical relief team
理事会	Board of Governors	開発援助	Development Cooperation programme
常任理事会	Standing Board of Governors	安否調査	Tracing services
職員	Staff Member	国際人道法	International Humanitarian Law
本社	National Headquarters	本国帰還	Repatriation
本社～局	～ Sector	難民施設	Refugee Home
本社～部	～ Department	被害者	Victims
本社～課	～ Direction		
～部長	Director General	■医療・衛生■	
～課長	Director	産院	Maternity hospital
～係長	Assistant Director	入院患者	in-patient
支部	Prefectural Chapter	外来患者	out-patient
支部長	Chapter President	移動診療車	Mobile clinic
支部 事務局長	Chapter Director	医療センター	Medical Centre
支部 事業課長	Chief of Operations Section	看護大学	College of Nursing
地区・分区	Branch・Sub-branch	看護短期大学	Junior College of Nursing
		看護師専門学校	Nursing School
■財政■		助産師学校	Midwifery School
社費	Membership fees	幹部看護師研修センター	Training Center for Graduate Nurses
社資集め	Fund raising	看護師長	Head nurse
免税	Tax exemption	看護師養成	Nurse Training
個人社員	Individual member		
法人社員	Corporate member	■講習■	
■救護■		普通課講習	Ordinary course
災害救護	Disaster relief	救急法	First aid
災害対策	Disaster preparedness	水上安全法	Water safety
防災	Disaster prevention	家庭看護法	Home nursing
救護物資	Relief goods	蘇生法	Cardiopulmonary Resuscitation (CPR)

日本語	英語	日本語	英語
■社会福祉■		■青少年赤十字■	
乳児院	Homes for infants	指導者	teacher sponsor
保育所	Children's home	全校(学級)加盟	enrollment on a school (class) basis
虚弱児施設	Facilities for children with motional disabilities	クラブ加盟	enrollment on a club basis
特別養護老人ホーム	Special nursing homes for the elderly	募金	contribution/donation
義肢製作所	※ artificial limb manufacturing	健康・安全	Protection of Life and Health
視覚障害者	Visually disabled people	奉仕	Voluntary Services
点字図書館	Braille library	国際理解・親善	International Understanding Friendship
聴覚障害者	Auditory disabled people	ちかい	PLEDGE
身体障害(者)	Physically disabled people		I, as a member of the Junior Red Cross, pledge to do my best to strengthen my health of body and mind to fit for better service for others, our community, our country and all the world.
精神障害(者)	Mentally disabled people	メンバー(指導者)協議会	members (teacher sponsors) council
■血液事業■		■国際赤十字■	
献血	blood donation	ジュネーブ条約	Geneva Conventions
献血者	donor	ソルフェリーノの思い出	Memories of Solferino
移動採血車	bloodmobile	赤十字国際委員会	International Committee of the Red Cross
血液センター	blood centre	国際赤十字・赤新月社連盟	International Federation of the Red Cross and Red Crescent Societies
血液成分	blood components	赤十字・赤新月国際会議	International Red Cross and Red Crescent Conference
赤血球	red cell	各国赤十字社	National Societies
白血球	white cell	アンリー・デュナン	Jean Henry Dunant
血小板	platelet	赤十字の原則	Red Cross Principles
血しょう	plasma		Humanity, Impartiality, Neutrality Independence, Voluntary service, Unity, Universality
輸血	blood transfusion		
■奉仕団■			
奉仕団	Volunteer Service Corps		
地域奉仕団	Community Volunteer Service Corps		
青年奉仕団	Youth Volunteer Service Corps		
特殊奉仕団	Specialised Volunteers Corps		

スピーチ例文

< A >

Good evening, Secretary General Mr.(Dr.) _____ and ladies and gentlemen. It is my great honor (pleasure) to express, on behalf of firstly Japanese Red Cross Society and secondly this delegation, my sincere gratitude for your warm welcome and kind reception.

We are now here (have just arrived) in this beautiful country to participate in _____ days Junior Red Cross, Youth International Exchange Programme.

As all of us clearly know, the purpose of this programme is to promote friendship and understanding among members and leaders of Junior Red Cross and Red Cross Youth in _____ and in Japan.

.....

It is therefore quite apparent to all of us that more and more exchange of views and opinions through this kind of face-to-face meeting programme is essential for better understanding one another and cooperation in every friends of humanitarian works of Red Cross.

This holds particularly true in educating young people in this advanced era, since twenty-one century is really depending on the rising generation for its desirable development. I believe the purpose of this programme is based on this concept.

Although feeling some responsibilities for fulfilling our mission as members of this delegation representing Japanese Junior Red Cross whose number of members is over 2.1 million, we have a strong feeling for having a enjoyable time in this pretty country.

We were very happy and excited to see the schedule which you kindly programmed in such a way.

I would like again to express my thanks to Secretary General _____(or Dr. _____and) staff in Red Cross Youth Department for arranging such a nice programme for us.

Thank you very much!

< B >

Secretary General, Mr.(Dr.) _____, Red Cross Director, Mr.(Ms.) _____ and distinguished guests.

It is very difficult for me now to find the words to express my

gratefulness for hospitality and kindness you have extended to us during our _____ days stay in this country.

_____ days passed in the twinkling of an eye and it is always sad to say good-bye. It is also true to say that parting by all means comes once we have met. However the friendship we have developed will never be broken. This is the most valuable result this exchange programme has brought about, I believe.

We were warmly welcomed everywhere and the programmes were so beautifully arranged. We could really enjoyed ourselves and purposes of our mission has been fully achieved.

Not only the young members of this delegation but also we, leaders of Junior Red Cross in Japan to make the best use of time similarities in culture and life-style between our two nations.

We are now feeling a strong obligation as members and leaders of Junior Red Cross in Japan to make the best use of the experiences and knowledge we have been provided by this golden opportunity to promote our daily Junior Red Cross activities after we go back home, particularly in the field of international understanding and friendship.

I would like to appreciate the efforts of every people concerned, with this programme. To be quite honest (frankly speaking) during the programme we encountered several difficulties partly because of the language barrier and partly because of differences in culture and life-style. It was very nice to see everybody tried very hard to help us whenever we had got confused and it is also true that it would have never been possible for us to understand your people and your country better if we had not been confronted with some differences in way of life.

Director of Junior Red Cross Department of Japanese Red Cross Society said to me before departure the Japanese Red Cross will continue this kind of International Exchange Programme. As many National Societies in Asia have been participating in this programme. It would be very much appreciated if your Society could extend your cooperation to this programme in the long time to come.

Thank you very much!

あとがき

青少年赤十字の国際交流は年々盛んになってきています。青少年赤十字を共通の土俵にして、海外の姉妹赤十字・赤新月社を訪問し、又、来日する海外の青少年赤十字メンバーを受け入れる数は増えつつあります。その交流内容を考えるとき、観光やもの珍しさが先行して、本質的なことが見過ごされないよう心がけなければなりません。

国際交流に参加する一人ひとりがその目的をよく理解し、自分の役割を自覚して、実りある交流を実現できるよう、このガイドブックを作成しました。編集にあたっては、主に高校生を念頭におき、中学生や指導者、またホームステイ受入れ家庭にとっても有益な内容になるよう考慮しました。

これまでの体験や蓄積をもとに作成したのですが、不備な点や改めるべき点も多々あることと思います。実際に使ってみてのご感想やご意見をお寄せください。このガイドブックによって青少年赤十字の国際交流が一步でも前進し、顔と名前の一致する、赤十字の仲間としての活動の輪が広がって行くことを期待します。

平成20年2月 発行

編集・発行／日本赤十字社 総務局組織推進部青少年・ボランティア課
〒105-8521 東京都港区芝大門1丁目1番3号
電話 03-3437-7082 FAX 03-3432-5507
HP <http://www.jrc.or.jp/>

平成20年2月 発行

編集・発行／日本赤十字社 総務局組織推進部青少年・ボランティア課
〒105-8521 東京都港区芝大門1丁目1番3号
電話 03-3437-7082 FAX 03-3432-5507
HP <http://www.jrc.or.jp/>